

伝三条西実枝筆『源氏物語』の表紙裏反故

——翻刻と紹介・雑記編——

新 美 哲 彦

第四七号に続き、今回は写本断簡以外の『源氏物語』表紙裏反故を翻刻・紹介する。表紙裏反故には、当該写本の製作にあたったと思われる書肆周辺の書留反故や書状などが多数含まれており、これらは近世前期の写本製作の実態を知る上で重要な資料である。便宜上、(一)表紙裏記載事項(表紙裏に記載される、当該本を作成もしくは書写した際の日付その他)、(二)書状、(三)書肆書留、(四)その他、に分けて紹介する。裏写りの反故は、バックライトなどを使用したものの、状態も悪く、読めない箇所も多い。特に書状反故に関しては誤読箇所もあるものと思われる。多くの諸先学からのご教示をお願いする。書肆書留反故、書状反故の性質に関しては別稿を用意したい。帚木・表裏、初音・裏、胡蝶・表、鈴虫・表裏、早蕨・裏、の表紙は閉じているため未調査。

〔凡例〕

- 一、巻名の下下の「表」「裏」は、反故の所在が表表紙か裏表紙かを示す。
- 一、【書誌】に反故の寸法、料紙、書写形状等を記述する。反故の寸法は最大幅をcmで示す。
- 一、【翻字】は通行の字体により、改行はそのままとする。
- 一、【考証】に当該反故の出典および考察を記す。
- 一、読めない文字は□を置く。(上欠)(下欠)は上下が欠けている箇所。

(にいみ あきひこ 高等学院非常勤講師)



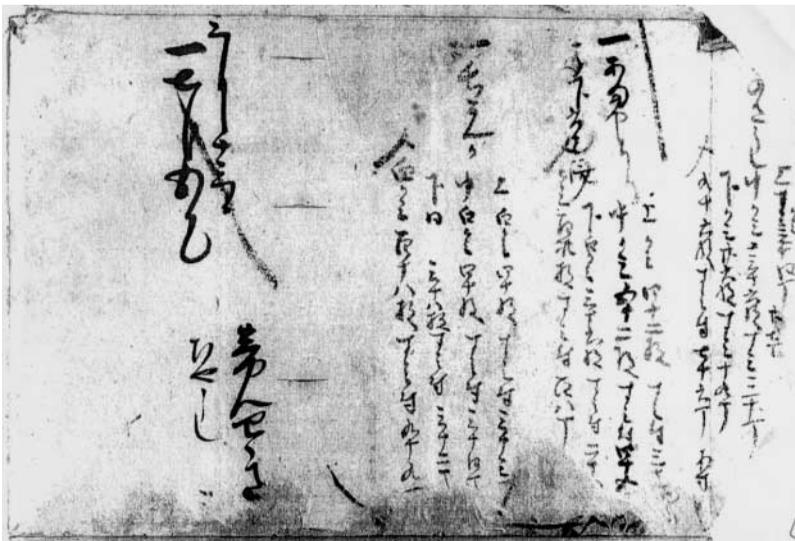
図版一 松風・裏



図版二 浮舟・裏



図版三 葵・裏



図版四 若菜上・裏

(一) 表紙裏記載事項

- 一 桐壺 「十一月廿七日」△きりつほ」墨卅五丁」白三丁」
二 箒木 表裏共に閉じている。
三 空蟬 「十一月廿日」うつせみ」墨十五丁」白五丁」
四 夕顔 「十月十二日」△夕かほ」墨五十八丁」白四丁」
五 若紫 「十一月十三日」△わかむらさき」墨六十一丁」白三丁」
六 末摘花 「△すゑつむ花」墨四十三」白五」
七 紅葉の賀 「△もみちの賀」墨三十八丁」白四丁」
八 花宴 「十一月十六日」△花のえん」墨十四丁」白四丁」
九 葵 「十一月二日」△あふひ」墨五十八丁」白四丁」
一〇 賢木 「△さか木」墨六十五丁」白五丁」
一一 花散里 「十一月十八日」△花ちる里」墨七丁」白五丁」
一二 須磨 「十月十六日」△すま」墨五十二丁」白四丁」
一三 明石 「△あかし」墨五十四丁」白四丁」
一四 澤標 「十一月七日」△身をつくし」墨四十二丁」白四丁」
一五 蓬生 「十一月八日」△蓬生」墨卅丁」白四丁」一校なをし
有」
一六 関屋 「十一月十八日」△せきや」墨八丁」白四」
一七 絵合 「十一月五日」ゑあはせ」墨廿四丁」白四丁」
一八 松風 「なをし濟」△松風」墨廿六丁」白四丁」
一九 薄雲 「△うすくも」墨四十丁」白四丁」内一行落かきな
をし入申候」
二〇 朝顔 「△あさかほ」墨廿七丁」白五丁」
二一 少女 「十月十日」△おとめ」墨六十二丁」白四丁」
二二 玉鬢 「十月八日」△玉かつら」墨五十一丁」白五丁」
二三 初音 「十一月十五日」△はつね」墨十九丁」白三丁」
二四 胡蝶 表閉。
二五 螢 「十一月廿日」△ほたる」墨廿六丁」白四丁」
二六 常夏 「十一月廿五日」△とこ夏」墨卅丁」白四丁」
二七 篝火 「十一月十八日」△か、り火」墨六丁」白四丁」
二八 野分 「十一月十四日」△野わき」墨廿三丁」白五丁」
二九 御幸 「十二月四日」みゆき」墨卅四丁」白四丁」
三〇 藤袴 「十一月廿七日」△ふちはかま」墨二十丁」白六丁」
三一 真木柱 「校合」すむ」△まきはしら」墨四十六丁」白四丁」
三二 梅枝 「十一月十六日」△むめかえ」墨二十一丁」白三丁」

三三 藤裏葉「十一月十日」藤のうら葉「墨卅丁」白四丁」
 三四 若菜上「なをし済」△わかかな上「墨百廿七丁」白三丁」
 三五 若菜下「△わか菜下」墨^{廿六丁}「三丁」白四丁」
 三六 柏木「十一月晦日」△かしは木「墨五十五丁」白三丁」
 三七 横笛「十一月廿八日」△よこ笛「墨廿六丁」白四丁」
 三八 鈴虫 表裏閉。
 三九 夕霧「△夕きり」墨八十六丁」白四丁」
 四〇 御法「十一月廿三日」△みのり「墨二十五丁」白五丁」
 四一 幻「十一月廿四日」△まほろし「墨二十八丁」白四丁」
 四二 匂宮「十一月十八日」△にはふ宮「墨十九丁」白三丁」
 四三 紅梅「十一月十七日」△紅梅「墨十七丁」白三丁」
 四四 竹河「△竹川」墨五十二丁」白四丁」
 四五 橋姫「十月廿八日」△はしひめ「墨五十丁」白四」内巻枚
 書なをし」
 四六 椎本「十一月十一日」△しゐかもと」墨四十八丁」白四
 丁」
 四七 総角「△あけまき」墨百ノ六丁」白四丁」
 四八 早蕨「十一月廿一日」△さわらひ」墨廿四丁」白四丁」

四九 宿木「△やとり木」墨百廿九丁」白五丁」内一〇落書なを^行

し有」但し此半枚なをしはあつまやのなをし」

五〇 東屋「十月」△あつまや」墨八十丁」白四丁」内一〇落有^行

かきなをし入申し也」○はあつまや 半枚」

五一 浮舟「△うきふね」墨八拾八」白四丁」

五二 蜻蛉「なをし済」△かけろふ」墨七十一丁」白三丁」

五三 手習「△手ならひ」墨八十二丁」白四丁」

五四 夢の浮橋「十月十八日」△ゆめのうきはし」墨二十一丁」

白三丁」

(二) 書状

桐壺・表【書誌】縦一五・六、横二六・一。奉書紙。

【翻字】

其礼

御果候

御心さし

翫仕候」

【考証】書状の一部。

関屋・裏【書誌】不詳。裏写り。

【翻字】

長□言序忍正月六日

表しや

弥兵衛様

将関津之通

上々右七状五もくへ

正月五日

一

【考証】請求書か。「たこやくし通」は四条坊門通のこと。『京雀』巻五（赤木文庫蔵寛文五年（一六六五）刊）に「四条坊門通 寺町行あたりには蛸薬師たやかしの堂たうあるゆへに世にたこやくし通といふ」とあり、「いのくま通西へ」には「た、みや町」がある。

絵合・表【書誌】縦一八・〇、横二四・七。奉書紙。

【翻字】

御祝儀之

伝三条西実枝筆『源氏物語』の表紙裏反故

□悦之

【考証】書状。「桐壺」の書状と同筆か。

松風・裏【書誌】縦二・四、横三〇・〇。楮紙。裏写り。

【翻字】

（上欠）御はり被成候

（上欠）立被成可被下候もはや間近ク罷成候故
（上欠）□而何も御いそぎ被成可被下候頼上候

一 ゆり若行書

三冊

一 おちくほ

二冊

一 ほうらい

二冊

□ニもいひし一枚つ、そへ□

五冊

一 源氏小か、み行書

（小かみ一冊二七枚つ、た

糸ほか廿）廿枚束

一 同おちくほほうらいノ糸

小かみ 廿八枚

一 源氏小か、みノ糸

五十四枚

一 四束廿四孝ノ糸

廿四枚

一同袖全かみ大本

七冊候

一同四束ノ全かみ

七冊候

右ノ通只今持せ遣し申候絵共はやく

御はり被成可被下候ひやうし外題ハ跡より遣し可申候

以上

本や

六月廿一日

半兵衛

【考証】「本や半兵衛」からの書状。

蛭・裏【書誌】縦一五・五、横二八・三。楮紙。

【翻字】

そか物語義経□□もはや

とく可参様ニ存候間

御延引被成候早々御下し

可申上候

一 先日金壺両上申候間更我

給誂被下候今御座□□□□

一 前二色御下し被成候處請も

悉くか、り物書付候先の

町飛脚御被下候□御

可被下候又はからす丸被成候如何

被下候不審た、早々か、り

御尤ニ御座候 拝啓以上

横笛・裏【書誌】縦一七・三、横二四・七。奉書紙

【翻字】

新春之

玩重云々

幾久

【考証】書状。桐壺表のつれか。

匂宮・表【書誌】縦一五・四、横二五・四。楮紙。

【翻字】

表紙屋三喜右衛門殿か家

大ごうは借屋仕居申候此仁

留こ□此定無御座候我等親

云々御座候先祖よりも存候二付

三ヶ條當時九ヶ條二御觸

商賣二結徒党中間組仕候

可候て外諸事諸人二立

儀二付六ヶ敷義出来候共

御難懸不申此人并諸道

紅梅・表【書誌】縦一五・三、横二三・五。楮紙。

【翻字】

公儀共二憲敷相済可申候

御象ヲ御公儀受取持右通

萬財売共二家事□相済

何時成共少も無先儀□家

請状如件

請人堺町通こまふく町

五兵衛

【考証】『京雀』卷二（赤木文庫蔵寛文五年（一六六五）刊）に

伝三条西実枝筆『源氏物語』の表紙裏反故

「○堺町通○こまひき町 いにしへ望月もちづきの駒こまを禁中に引まいらせしを此町のわたりにて引つくろひけりとにや今は世にとなへあやまりてこまふく町といふ」とある。

早蕨・表【書誌】縦二四・〇、横一四・六。楮紙。

【翻字】

此訴状之通

【考証】訴状か。

浮舟・裏【書誌】不詳。上に裏写りの書状が貼られ、その下に透けて見える。

【翻字】

此間は被遣度奉存候而卷内之外

たひむらさきひほのを遣し被申候而

慥ニ御仕存可申上候扱ひやうしの□□く

今取やし出来候而申參候而參上候早々

御仕近被成可被下候対之外□可□子細は此方に

分□前より出来候へく御座候被可内如何

物□之かね□不□候故いか□得□候

□□ひや□う此度之さうし又外□□

申物待居申候はやく下し申し度奉存候

而参候て早々御仕思可被下候む頼り

夫故前方よりいひ申上候是尤座□

□之返く遣被下候以上

本や

半兵衛

八月十六日

ひやうしや

弥兵衛様

【考証】「本や半兵衛」から「ひやうしや弥兵衛」への書状。

【書誌】縦二・四、横三三・二。楮紙。裏写り。

【翻字】

只今ハ参得御意不浅奉存候仍鳥子打

紙之事帰り尋候へハ半切紙十五枚なく候は

無御座候か是は候たり申ましく候や先有合ニ

遣候し萬たり不申は貴様御方より何とぞ被遣

可被下候奉頼存候□□卷ニ可申上候

此紙半切八枚御座候是ハまつかたノかみにて人より

□らすめか奉存候若一枚か□なし不足ハ是にても

用可被申候哉先□□被申候若成可申候□

やはり御題可被下候右之通にて三申候御取かへ

可被下候□□度打書申上候使ニも立可申候哉

と□□□を申候以上

本や

半兵衛

ひやうしや

弥兵衛様

【考証】「本や半兵衛」から「ひやうしや弥兵衛」への書状。

(三) 書肆書留

桐壺・裏【書誌】不詳

【翻字】

重而渡候

○ 六匁三分了本□(八重?)せん

【考証】注文書か。

未摘花・裏【書誌】不詳。裏写り。

うらに

【翻字】

二拾丁

(上欠) 十六日
(上欠) 分

左近殿

三拾七丁

ひやうし一冊

拾三丁

(上欠) 十七日

三拾二丁

(上欠) 匆五分

打かみ一束

四拾五丁

(上欠) 廿日

主水殿下

四丁

(上欠) 分

小本ひやうし二冊

二拾七丁

平兵衛殿

三拾四丁

(上欠) 〆五分

藏所御用

七拾八丁

(上欠) 老匆八分 (下欠)

【書誌】不詳。裏写り。

花宴・表【書誌】不詳。裏写り。

【翻字】

【翻字】

□六厘

九匆五分

匆三分 (下欠)

伊ひやうへ様

葵・表【書誌】縦二・〇、横二九・八。楮紙。

匆九分

みのうちかみ 三状

【翻字】

壹状二つき一匆三分つ、

十日
匁

一 三分

「むらさき

一 三匁 みのうちかみ 壹束

葵・裏【書誌】縦二〇・七、横三〇・三。楮紙。

【翻字】

(上欠) 匁

ろううち (下欠)

(上欠) 月十四日

なおし

(上欠) 式分

ひよろり本一冊

壹分五厘

とちなおし二冊

□□分

七厘五毛かき

四分□厘

うつし代 六十四枚

廿九匁三分五厘

内々廿五匁うけ取極月卅日

然テ四匁三分五厘

□十_{五匁}日

廿五匁

らう地鳥子百枚

十二日

四匁五分

りやうかた 十枚

しきし

メ三十三匁八分五厘

十二日

三匁七分

しきし

銀子相済申(下欠)

【書誌】不詳。裏写り。

【翻字】

メ□三匁八分五厘

卅五匁うけ取

然□□匁八分五厘

三むらと新平との

らう地 百

三十三匁八分五厘

十二月十五日

鳥子

きやうしや

一 二匁五分

吾妻紀行

理兵衛殿

鳥子

九日

十二月十六日

五匁 かけ□□□

一 式匁四分

しよろめ本 四冊

竹取

月十七日

メ十七匁三分五厘

二分五厘ひやうし

綺語抄 二冊

一

上すみ□□

堀川百首題

竹取○中 十七

下 十七

賢木・表【書誌】縦二・七、横三〇・二。楮紙。一行目の

メ五十六丁

「廿七日」は上からの書き直し。

かみ

【翻字】

メ七十(下欠)

十一月廿七日

十右(下欠)

一 二匁五分

吾妻^事紀行

【書誌】不詳。裏写り。

伝三条西実枝筆『源氏物語』の表紙裏反故

【翻字】

上かみ数廿四丁すみ付十(下欠)

しゆてん 中かみ数廿四丁すみ付十六丁

下かみ数十八丁すみ付十丁

かみ数ノ六□□□□すみ付ノ四十丁

竹取 上かみ数四十六丁すみ付卅□

一 □□さん

下かみ数四十四丁すみ付三十八□

かみ数ノ九十丁 すみ付□□□□丁

一 □□□□ かみ数二□□

すみ□□ 六十七丁

六匁六分八厘

一 小か、み五 かみ数

すみ付

賢木・裏【書誌】不詳。裏写り。

【翻字】

□□□□

□日

一 式十文 とうしん

廿日

一 百匁 かはらけ百

廿三日

一 式十五文 からこかす

五十

おく方□□□□

□八日

一 式百九十三文 □□渡候

【考証】何を指すか不明。書肆書留ではないか。

明石・裏【書誌】縦三二、横一八・七。楮紙。

【翻字】

拾拾匁五厘哉拾四匁五分二厘

少女・表【書誌】縦二・三、横三〇・一。楮紙

【翻字】

三匁八分 いせ物語（下欠）

ひやうし

（上欠） 月十三日

（上欠） 八分 本ひやうし

二冊

かもん様

（上欠） 月廿八日

（上欠） 分 蔵助とのけたい

せしてまししやうマシ

廿四冊

【書誌】 不詳。裏写り。

【翻字】

蔵之助殿

（上欠） 月十日

（上欠） 八分 御本吉統記 四冊

□ろくひやうし

（上欠） 五日

（上欠） 七分 御本きろく 貳冊

□ひやうし

（上欠） 月廿七日 しきのかけなおし

（上欠） 三分 ひやうら大せん一冊

（上欠） 月廿六日

（上欠） 貳分 きろくとち

いおりとのとりつき

メ二匁

少女・裏【書誌】 不詳。裏写り。

【翻字】

伊ひやうへとの

メ十匁五分との

メ一匁五分こと成し

蛸・表【書誌】 縦二七・五、横一七・三。楮紙。

【翻字】

二月七日ニ請取

伝三条西実枝筆『源氏物語』の表紙裏反故

一大本うちかみ

三百枚(下欠)

(上欠) 月廿一日

内 百十枚

ていゑ

たとうかみ一つかり 青鳥□(下欠)

貳百枚

内二月□十五日百枚

(上欠) 月廿八日

代一匁七分

三月廿八日ニ請取

わたし

壹匁五厘

ひやうし

七冊

一うちかみ

千枚

三国傳記五

内 半切百枚内五十かみとませし也卯月四日

おちくほ二

同 百五十枚取ませかみ卯月四日

【書誌】不詳。裏写り。

ていゑ斗半切四十枚

【翻字】

半切

内

百枚九月廿八日

【考証】他の書肆書留と違い、購入した品名が並ぶ。

百枚十月十八日

□枚十一月三日

真木柱・表【書誌】縦二・三、横三〇・二。楮紙

□匁二分 筆

【翻字】

一 七匁五分

鳥子打かみ

百枚

(上欠) 廿一日

□一月九日

壹匁二分五厘打鳥子

一 二分

伊勢物語

壹冊

□月廿二日

一 壹匁 みのほく

□落 二枚

一 七匁五分 銀はく 廿五枚

□月廿一日

一 壹匁五分 にせきんの

□しめん 六枚

はしの□□ メ三匁二分二厘

メ式匁□□

月廿五日

一 三匁 みの打かみ 二状

廿(下欠)

(上欠) 一状

【書誌】不詳。裏写り。

【翻字】

□廿日

一 四□五分 みのすみ

メ廿一匁廿匁二分

卯月十七日

一 式匁 ひうちかみ八□

□月廿□

一 七分 □□打 百三□

若菜上・表【書誌】縦二・三、横三〇・〇。楮紙。

【翻字】

松木中納言(下欠)

極月廿九日 永(下欠)

一 式十匁一分メて之銀相濟申上□

五月

七月十八日

一 一匁五分 みの打かみ 一状

内百□□□

内百□□□

内百□□□

内百□□□

式匁五分打かみ

百枚

百三□

伝三条西実枝筆『源氏物語』の表紙裏反故

□月廿二日

一 二分 まにやひ

うら打 拾

メ廿一匁八分六厘

内々三匁七分たとう□

上白かみ四十枚すみ付三十三□

一 長こんか中白かみ四十枚すみ付三十四丁

下同 三十八枚すみ付三十二丁

メ白かみ百十八枚すみ付九十九丁

若菜上・裏【書誌】縦二〇・五、横三〇・〇。楮紙

【翻字】

上^{かみ}廿^枚卅^枚三十四丁（下欠）

（上欠）のさうし中かみ三十六枚すみ三十丁

下かみ廿六枚すみ十九丁

メ九十六枚すみ付七十六丁 相（下欠）

三月十三日

しゅんせい

一 七分五厘

ひやうし

【書誌】不詳。裏写り。

【翻字】

本や

半兵衛殿

月十四日

式分五厘

□事かみ

月十五日

六分

文つれく

月二日

式分

まに合

（上欠）匁一分六厘済

メかみ百廿枚すみ付百八丁

月四日

九分

壹分

大本□□

みのうら打

□ちかつき

上かみ廿二枚すみ付□□

中かみ廿八枚すみ付十八丁

下かみ廿二枚すみ□

メかみ数七十二枚□

四分

みの水打

貳状

(上欠) 月八日

貳匁五分

あく打

まんたらかみ

百枚

(上欠) 月九日

四分

みの水打 二状

夕霧・表【書誌】縦二・三、横二九・八。楮紙。

【翻字】

(上欠) 月十七日

(上欠) 五分

あさきひや(下欠)

メ四匁八分五厘

正月廿七日

一 貳匁五分

打かみ 百枚

卯月十六日

一 八分

みの水打 四状

□月

一 貳分

□□□打 二状

卯月十九日

一 三分

いせ物かたり 壹冊

(上欠)

月十五日

四分

みの水打

貳状

伝三条西実枝筆『源氏物語』の表紙裏反故

一 五分□ □□つゝみ (下欠)

【翻字】

□月四日

夕霧・裏【書誌】縦一九・七、横二九・九。楮紙。

式分 そ□物かたり 一冊

【翻字】

□□五日

壹分五□ かりとち 二冊

(上欠) 十二日

孫九郎殿

□廿四□

(上欠) 分□

ひやうし 一冊

二匁二分 ひやうし 十一冊

(上欠) 分

みのかみ式状遣候

(上欠) 月十三日

□二分 さいくのひやうし

三匁六分四厘

鳥子打かみ十三(下欠)

×二匁九分五厘

二拾八匁かへ

(上欠) 四日

百人一首

月廿三日

あさきひやうし

(上欠) 分

ひやうし 一冊

壹分五厘

かりとち 二冊

(上欠) 一日

白かみ本 四(下欠)

月廿九日

折本

(上欠) 分

白かみ本 四(下欠)

八分

折本

(上欠) 四匁三分四厘

らう地かみとも 三□

八分

折本

【書誌】不詳。裏写り。

らう地かみとも 三□

御法・裏【書誌】不詳。裏写り。

【翻字】

三拾八丁

十七丁

三拾八丁

初木□□

金田屋

七右衛門

総角・表【書誌】縦二〇・八、横二七・五。楮紙。

【翻字】

(上欠) 五分

し(欠) ぶり

此方ノひやうし

五月廿七日

一 拾六匁五□

かけ

□助殿

一 壹分三厘

かきのひやうし

六月七日

メ四匁四分三厘

一 四分五厘

かた折打かみ 百□

九月廿九日

受取入分引取申候

二匁二分九厘□

すみ付合九百廿三丁代卅六匁九分式厘

内々壹メ文代十二匁渡候

さいくの銀四匁四分三厘

右之高二口の銀ヲ引残テ□引二候

九月廿九日 銀廿匁四分九厘

【書誌】不詳。裏写り。

【翻字】

中□□兵衛□

八月十一日

壹匁　　みの打かみ

メ廿五匁二分八厘

切入壹匁二分五厘

七

宿木・表【書誌】縦二、横二九・六

【翻字】

メ廿五匁二分

【書誌】不詳。裏写り。

【翻字】

わか松や

六兵衛殿

一 廿七匁貳分三厘

内々　　三百文代三匁六分□

極月卅日

正月七日

一 壹分五厘　　鳥子みせかみ

卯月十九日

一 壹匁五分　　ふる

よこさうし

宿木・裏【書誌】縦一八・八、横三〇・三。楮紙。

【翻字】

(上欠) 月廿三日

一 貳分　　おしゑ切ちん

月五日

一 八分　　の、け、ゑ壹(下欠)

十月十七日

一 八分　　とう仁五卷

十一月廿日

一 壹匁六分　　ほうらい山(下欠)

一 三匁七分五厘 なほし うら(下欠)

一 九分 文中やう十二枚

一 壹匁九分 うら打きすなこ事(下欠)

【書誌】不詳。裏写り。

【翻字】

月十日

一 三匁 ひいな□うし

□□□□ 拾□

上白かみ冊二丁すみ付廿四丁半

ふんしやう 中白かみ冊九丁すみ付冊三丁半

下白かみ冊七丁すみ付冊二丁

メ白かみ数百八丁すみ付九十丁

□月廿日

一 三分七厘 大本

一 匁九分 内ていゑ 三十八枚

メ七匁三分二厘

東屋・表【書誌】縦二・〇、横三〇・〇。楮紙。

【翻字】

(上欠) 分 いせ物かたり 二冊

(上欠) 十□日

(上欠) 分五厘 ひやうし一冊

メ七分五厘

【書誌】不詳。裏写り。

【翻字】

すなこともに

三匁 上すみ拾丁

中すみ拾丁

下すみ九丁半

うらすなこ

五日

六分 外たい 三枚

メ廿二匁二分

一□三分

浮舟・表【書誌】縦二・六、横二九・七。楮紙。

【翻字】

(上欠) 八分

(上欠) 子らく(下欠)

メ三匁一分五厘

(上欠) 月五冊

(上欠) 十木分

かし

(上欠) 月四日

一 壹匁貳分五厘

らう地 五枚

【書誌】不詳。裏写り。

【翻字】

本町

宇兵助殿

□月七日

一 壹分五厘

百人一首 一冊

二月廿日

一 壹分

九十加ぎ

□さうし 一冊

三月二日

一 壹匁九分□

廿一匁かへし

蠟地

九枚

一 八分五厘

句表紙

一冊

□□□一枚

蜻蛉・表【書誌】縦二・三、横三〇・〇。楮紙。

【翻字】

(上欠) 月廿一日

一 七分五厘

白かみひ(下欠)

(上欠) 五月七日

一 六分

ふんしや(下欠)

(上欠) 五月十七日

左小本

一 貳分

ひやうし

六月十一日

一 四分

らうゑい

六月廿一日

一 壹分五厘

しやうろ(下欠)

一 十二匁四分五厘 右^六五十六丁

メ七十匁四分七厘

七りん半かき

一 筆代 一冊七十三丁

一 同 卅七丁

一 同 五十六丁

【書誌】不詳。裏写り。

【翻字】

□分 白かみひや□□

月十二日

一 式分 いせ物かたり

小本やまととち

月五日

一 三分 上なりほん

一 三分 う大いの本

□□とち

伝三条西実枝筆『源氏物語』の表紙裏反故

□月廿七日 やまととち

一 壹分八厘 十□枚

卯月十一日

一 五分 ひやうし

一 四分五厘 白かみやまと閉

卯月十六日

一 式分五厘 打かみ

五月十八日 一分九厘 三厘半かき

一 一匁十分四厘 上十九丁

ふんしやう中□

ひつ代 下十七丁

□□□九日

一 三分五厘 ひやうし

手習・表【書誌】縦二・四、横三〇・三。楮紙。

【翻字】

メ廿匁二分

内々十匁うけ取

十二月卅(下欠)

【書誌】不詳。裏写り。

【翻字】

九月十七日

一 三匁

二□

九月十九日

一 大なこん殿

半人手

十月廿日

一 四匁五分

みのすき

うつしかみ

三□

メ廿匁一分

大なこん様

□□

メ一匁

(四) その他

若紫・裏【書誌】縦一五・〇、横二・五。楮紙。裏写り。

【翻字】

徳二年卯月八日

侍従大納言

のほとなさもさなから夢の

色ふかきころもにあらぬしら

ほたれぬこれやまたきに」

【考証】『延徳御八講記』末尾の御製長歌の一部。侍従大納言は跋文を書いている三条西実隆。橋姫・裏のつれ。

末摘花・表【書誌】縦二・三、横一六・六。

【翻字】

七日

亀之」

【考証】名前？花散里・裏と同一人物か。

花散里・裏【書誌】縦二〇・五、横一六・〇。奉書紙。

【翻字】

りにやみよし野の

今朝は見ゆらむ

【翻字】
亀之□

【考証】『拾遺集』の巻頭歌。「亀之□」は末摘花・表の人物と
同一か。

野分・表【書誌】縦二九・七、横不明。楮紙。裏写り。

【翻字】

冊三代(左ニスシユナイ)
崇峻 天皇 皇欽明

繼體天皇十四年庚子誕生天皇元年丁未八月即位

七十六用明麻戸皇子

柏木・裏【書誌】縦二二・一、横二二・二。楮紙。

【翻字】

兵主縁起

七丁

一校

【考証】『兵主大明神縁起』のこと。本書は慶長九（一六〇四）
年奥書を持つ。なお、裏写りに「兵主太神」と見える。

伝三条西実枝筆『源氏物語』の表紙裏反故

横笛・表【書誌】縦一五・三、横二三・六。奉書紙

【翻字】

春たつといふ

山もかすみて

【考証】花散里・裏のつれ。拾遺集巻頭歌。

夕霧・裏【書誌】縦一五・三、横二一・〇。楮紙。

【翻字】

前大納言四辻入道善成卿

もたかしふりぬるかねの

【考証】四辻善成の歌か。新編国歌大観には該当歌なし。

幻・裏【書誌】縦二五・七、横一七・七。楮紙

【翻字】

清浄恵

達磨三婆轉婆轉□賀

行恵

地藍跛
□梵字□

紅梅・裏【書誌】縦一八、横二四・八。

【翻字】

にやみよし

ゆら 野の山も

ん かすみて

あひみてのの

ちのこゝろに

くら

ふれはむかしは

のも

物おをはさりけに(ママ)

枚百枚をさ、

院 大

大 「

【考証】手習。

橋姫・裏【書誌】縦一四・〇、横二二・七。楮紙。

【翻字】

粟田口校合相濟置也濟

御八講跋

六丁

長哥

御八講跋記 延

あら玉のとしのみとせ

心地してありし歎の

かさね又いまさらにし

【考証】後半五行は裏写り。『延徳御八講記』。若紫・裏のつれ。

〔付記〕早稲田大学図書館紀要第四七号「伝三条西実枝筆『源氏物語』の表紙裏反故——翻刻と紹介・文学資料編——」の訂正箇所をここに記載する。

九頁〔乱丁箇所一覽〕「御幸文中の歌番号は、すべて新編国歌大観番号に拠る。・②裏」↓「御幸・②裏」

三二頁〔作品一覽〕未詳「二八野分表A」↓削除